

光経済研究所株式会社

東京都中央区日本橋人形町 1-18-9 TEL 03 (3669) 2331(代)

証券投資顧問業登録関東財務局長第 557 号 日本証券投資顧問業協会会員 011-00557 号

平成 14 年 5 月 14 日号

ファンドマネージャー 出来岡 潔

<http://www.hikarikeizai.co.jp>

今日も基本数値の使い方についてご説明します。9・17・26・33・42・65 という基本数値(前回までのレポート参照)のなかで、**26**を**絶対数**と呼んでいます。言葉通り絶対的な数であるわけです。ですから、直近の安値から高値までが26日、週足を使うなら26週。あるいは直近の高値から安値までが26日(26週)これに該当する所は**有力な変化日**とみななければなりません。

安値から安値までが26日(26週)、高値から高値までが26日(26週)。これでもかまいません。やはり**有力な変化日**です。

もちろん、いつもちょうどピッタリというわけにはいきません。1~2日(1~2週)の誤差は見ておかなければなりません。

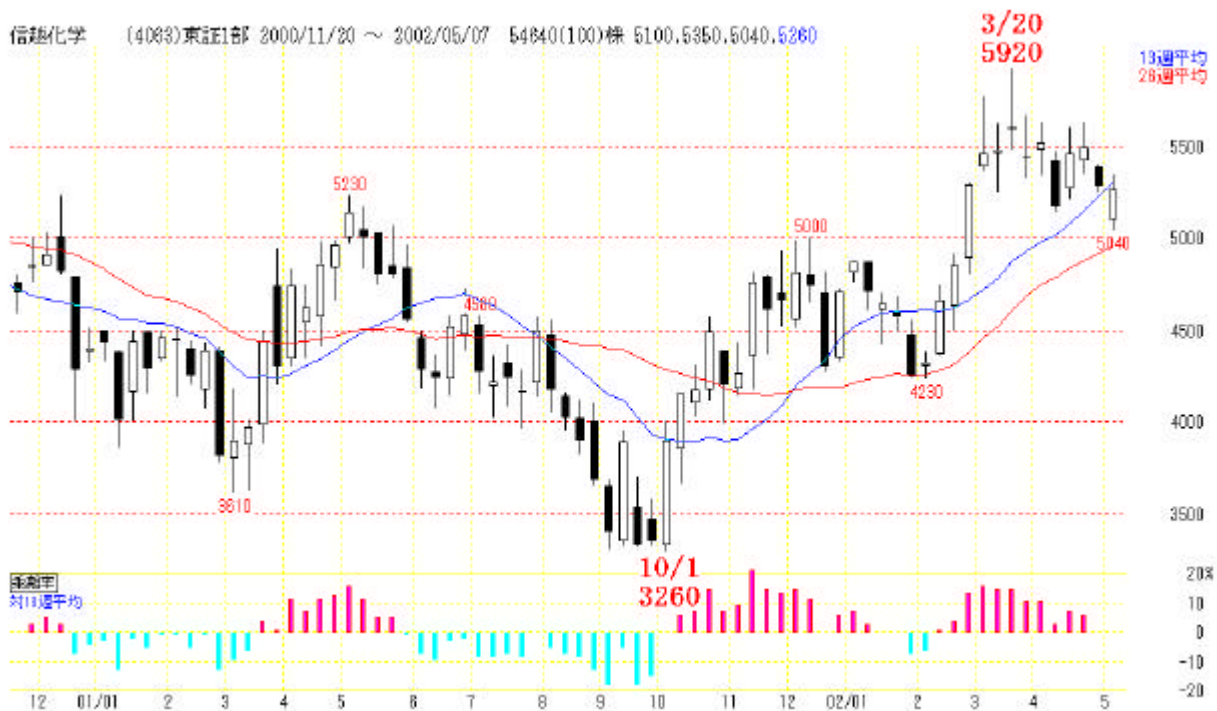
ただ、肝要なことは、単に26日(26週)に該当するから**有力な変化日**とは限りません。**26日(26週)に該当する上に、なおかつ計算値(計算値の出し方は3月7日号のレポート参照)に届いたら、これまでのトレンドが転換することが多いのです。**

4063 信越化学の週足チャートをご覧ください。昨年10月安値 3260 円から今年3月高値 5920 円までの日柄は25週。絶対数である26週に対する誤差1週であるわけです。

なおかつV計算値の5770円を達成。N計算値の5970円にも近い...

このように**有力な変化日に計算値に届く所まで上げたら天井をつけることが多い**と覚えておいてください。

(無料テレホンサービス)やさしいチャート教室 03-3669-5552)



Alpha Chart 社製

このレポートは投資の判断となる情報の提供を目的としたものです。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようにお願い致します。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。